



## 大学の顔、図書館！

附属図書館長 菱田哲郎

海外の大学に行くと、その大学の図書館に案内されることがよくあります。昨年10月にアメリカのニューヨークにほど近いプリンストン大学で講演をおこなった折、大学の博物館と図書館を案内していただきました。図書館がいくつかある中で東アジア研究部の図書館を見せていただきましたが、古い建物の中に、日本語、朝鮮語、中国語の本がぎっしりと書棚に並べられていて、一瞬、どこにいるのかを忘れてしまいそうでした。ただし、本の並び方が日本とは大きく異なっていて、配列の原則はまるでパズルのようで、それを短時間で理解することは困難でした。そして、まわりを見渡すと、その開架式の書庫の中には机が置いてあり、院生が必要な本を積み上げていて、いつでもここで好きなだけ勉強できるようにしているとのことでした。学生数の少ない大学ならではの光景で、本に囲まれて好きなだけ勉強できる環境は、たいへんうらやましく思いました。

昨年9月には韓国の忠南大学という国立大学に行きましたが、ここでも旧知の教員に連れられて図書館を訪れました。広大な敷地の中、やや小高い場所にあり、大学の中心という趣の場所に図書館がありました。ただし、ここでの目的は図書館の1階にあるカフェで、大学の中で一番おいしいコーヒーが飲めるとのことで、くつろいだ時間を過ごすことができました。このカフェはたいへん賑わっていて、本を見に来た人かどうかはわかりませんが、多くの学生や教職員に図書館が「使われている」という印象をもちました。

さて、日本の大学図書館もそれぞれ特徴があって、たとえば立命館大学のように、機械によって自動的に書庫の本が取り出されるといった未来形のものもできています。そうした試みの場であることもまた大学の顔としての図書館の姿と言えましょう。そして、大学時代の長い時間を過ごす場所として、快適であることが何よりです。府立大学の図書館もリニューアルされ、調度品も一新されました。いろんな場所に机があって、好きなスタイルで勉強できそうです。新入生の皆さんも在校生の皆さんも、それぞれ図書館での楽しい時間の過ごし方を考えてみてください。

\*なお、本欄で触れたプリンストン大学に関して、そこでの2年間の生活をもとにする江藤淳（文芸評論家、1932-1999）の随筆『アメリカと私』があります。今から50年余り前の描写ですが、アメリカ論であるとともに、それによって照射される日本人論が秀逸です。

（ひしだ てつお：文学部教授）

御紹介の『アメリカと私』（文春文庫）江藤淳著 文藝春秋 1991.3刊（請求記号914.6 || E）は、雑誌架横のディスプレイラックに配架していますので御活用ください。

## 歴彩館（資料館）に思う～文学部教員からの眺め～

図書館運営委員 山崎 福之

この頁は本来筆者の読書体験や学生諸子に有益な図書を推薦する文章を記すべきところであるが、文学部が合築棟（京都学・歴彩館）に移転したことに鑑み、文学部教員の一人として、思うところを述べさせていただくことをお許し願いたい。

昨年の秋以降、文学部の歴彩館移転が本格化し、今は新しい仕事場として少しずつ日常の風景となりつつある。最も大きな景色の変化は、何と言っても3階、4階からふと階下へ目を向ければ、そこには附属図書館があり、資料館があるということだろう（歴彩館という呼称には、館全体と旧資料館の二つの意味がある。本稿では資料所蔵館として従来通りに資料館と呼ばせていただく）。机に向かって静かに本を読む人、ひたすらスマホの画面に見入る人、資料やノートを広げて文献調査に余念のない人、などなどその様子は一目瞭然である。時には机に突っ伏して寝ている人も。わざわざ出向かなければならなかった図書館、資料館が文字通り目の前（目の下!）にあることは、文献資料の調査においては確かに至便のことであり、今後の教育・研究のためには画期的な形が形成されたと言ってよいだろう。もっとも屋根が松笠のような形状で隙間から雨に直接当たる場所も多いし、ガラス張りで外から丸見えになるという心理的な圧迫感もある。また吹き抜け構造で足音や話し声が筒抜けになったり、階ごとの温度差があったり。斜めの天井、室内に柱むきだしという研究室もある。X字形の鋼材に囲まれる演習室も。外見からはわからない、こうした建物内部の構造的な問題は如何ともしがたいのだが。温度調節なども、まずは一年間の

状況をよく検証することが必要と考えられる。

さて、周知の通り資料館には様々な分野の貴重な文献資料が所蔵されているのだが、どちらかと言えば、国宝に指定されている「東寺百合文書」に代表されるような歴史関係の資料への関心が高いように思われる。しかし、意外にと言うべきではないのだが、実は古典文学関係の資料も豊富にある。そこで日本・中国文学科では、貴重書に指定されているものを中心に適宜選別した文献を改めて調査し、その結果を一般に広く紹介すべく、当時の総合資料館文献課の方々と共同で、京都新聞紙上に平成19年から「古典籍をあじわう」、平成22年からは「古典籍へようこそ」と題した文献解説記事の連載を行ってきた。その成果をまとめて出版したのが『古典籍へようこそ』（2010年11月 京都新聞出版センター刊）である。

そこで取り上げた文献は、万葉集、伊勢物語、源氏物語、平家物語、世間胸算用、さらには文選、金瓶梅といった日本と中国の代表的な古典の写本や版本ばかりではなく、色鮮やかな江戸時代初期の奈良絵本や藤原定家の日記である明月記の写本、19世紀朝鮮の漢字字書などで、幅広く多彩な所蔵資料が効果的に網羅されている。その出版の二年前に京都府が定めた「11月1日古典の日」に合わせた出版であった。高校生にも十分読んで理解できる程度の平易な解説で、各文献の記事を見開き2ページに収め、それぞれにカラー図版を載せ、見やすくコンパクトな大きさ、適切な定価もあって好評を博したようである。

その京都新聞への連載は平成24年から「遊びをせんとや」と名前を変えて現在も続いて

おり、先の『古典籍へようこそ』と同様に、文献紹介本第二弾として、今年度中に同じく京都新聞出版センターから出版予定である。今回は題名からも窺われるように、古典文学や歴史資料に限定せず、カルタ、地誌、風俗資料、植物図鑑などを幅広く取り上げた。いわば京都を中心とした文化史の資料紹介とも言えるものとなっていて、科目に当てはめれば「京都文化学」と呼べるものでもある。先の本と同様、一般の方々にも読みやすい内容になっているので、一人でも多くの府民の、そして本学の教職員、院生、学生の目に触れて、京都文化学の面白さを楽しんでいただきたいと願っている。

ところで、その資料館と附属図書館。京都府の強い意向によってワンフロアの形となっている。一般府民も図書館へ自然に入れるようになっており、学生の勉学のために設けられている図書館の各設備の利用が制限されることや休館日の設定が平日になること、図書利用目的以外の座席使用などが危惧されていた。現在のところ大きな問題とはなっていないようだが、今後も長い目で細かく利用実態を検証していくことが大切である。

一方純粹に資料調査の点だけを考えれば、初めに述べたように合築したことに利便性はある。資料館で調査する資料について、図書館に所蔵される各種の入門書によって基本的知見を確認するとともに、詳しい専門書によって掘り下げた研究をその場で行うことが可能になる。ここで紹介した「遊びをせんとや」に取り上げた資料についても、たとえば『京童』『拾遺都名所図会』といった江戸時代に広く流布した京都案内記は、今日の京都本のモデルでもあり、また京都各地の当時から

現代にまで至る変遷を知る上でも不可欠の資料であるが、図書館所蔵の『新修京都叢書』にも収められており、それら案内記について専門的な研究を進めた国文学中国文学専攻の修士論文も閲覧できる。また『本草図譜』や『草木図説』といった植物図鑑は、江戸時代当時に本草学と呼ばれた植物学の達成を知る貴重な資料であるが、これも『牧野和漢薬草図鑑』や、文学関係では『万葉植物図鑑』・『紅樓夢植物図鑑』などによって関連する課題を見出すことができるのである。各種データベースの利用も簡便に行えることも合わせて、一箇所で必要な研究が完結可能になることは実際便利なことと言わなければならない。ただそれはワンフロアでなくとも達成可能であると思われるのだが……。結局のところ、課題は先に危惧されていた問題点の洗い直しを不断に行うことで不安の払拭に努めることであろう。

ただそのためには、当然それだけ図書館職員の責任が大きくなるのは避けられない。自明のことながら、人員も決して十分とは言えない中での過重負担となることのないよう、毎日多くの入館者の対応に当たっている職員の生の声を活かして、諸課題に真摯に向き合う姿勢が管理者には求められる。そして教員もまた、特に文学部教員は上から眺めて様子を見ているだけではなく、合築の問題点に積極的に関心を持ち、その利便性が十全に活かされ、教育研究の発展につながる図書館・資料館となるように努めることが望まれている。

(やまざき よしゆき：

文学部日本・中国文学科教授)

---

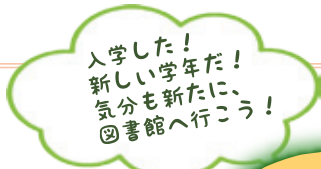
御紹介の『古典籍へようこそ：京都府立総合資料館の書庫から』京都府立大学文学部日本・中国文学科、京都府立総合資料館編 京都新聞出版センター 2010.11刊 (請求記号026 || K)、『新修京都叢書 全25巻』野間光辰編：新修京都叢書刊行会編著 臨川書店 1993-2006 [再版] 刊 (請求記号291.62 || S || 1~25)、『原色牧野和漢薬草大圖鑑』和田浩志、寺林進、近藤健児編修 北隆館 2002.10 新訂刊 (請求記号499.87 || G)、『原色万葉植物図鑑』小村昭雲著 桜風社 1968.6刊 (請求記号911.125 || K)、『紅樓夢植物圖鑑：跨界新世代經典』2版 潘富俊著 貓頭鷹出版 2014.1刊 (請求記号923.6 || H) は、雑誌架横のディスプレイラックに配架していますので御活用ください。



【下鴨中通りから正面玄関】

**図書館は、大学の北隣です。**  
 稲盛記念会館の向かい側の大きな建物「京都府立京都学・歴史館」の2階にあります。

同じフロアには、京都府立京都学・歴史館の京都資料総合閲覧室(旧総合資料館)や京都府立医科大学附属図書館下鴨館があります。3階4階は、文学部研究室です。



■開館時間：平日 9:00~21:00  
 土日 9:00~17:00

■休館日：毎月第2水曜日  
 祝日、年末年始

※平日17:00以降、土日は行っていないサービスがあります。  
 また、サービス終了時間が設定されていても、カウンターでオーダーすれば可能な限り対応しますので、ご安心ください。  
 詳細は、「図書館利用案内2018(学内用)」をご覧ください。

# 図書館の主



**資料は、図書館HPの本学蔵書検索 (OPAC) にキーワードを入れて検索します。**

検索結果の画面で、「所在」と「請求記号」(本の背表紙のラベル)、状況(空白は書架にあり。貸出中は返却予定日あり)を確認してください。府大図書館内の所在は、書架横等に表示しています。

**本の貸出は、学生証で行います。借りたい本と一緒にカウンターへ提出してください。自動貸出機(2週間の貸出のみ)もご利用ください。**

返却は、開館時間中に図書館2階カウンターへお願いします。

**返却期限の過ぎた本がある利用者へは新たな貸出ができないので、ご注意ください。**

なお、検索結果には、府大図書館で所蔵している資料の他、研究室や、京都府立京都学・歴史館、京都府立医科大学附属図書館の資料も表示されますのでご注意ください。

研究室で所蔵されている資料の利用については各研究室へおたずねください。

府大以外の資料は、各館でご利用ください。歴史館の資料は貸出していません。

府立医大附属図書館の資料の貸出は、協定校の項を参照してください。



- データベース・電子ジャーナルは上部メニューからアクセス可。
- 電子ブックは、図書と同様にOPACから検索可。  
 ※学内LANに接続したPCからご利用ください。  
 学術認証フェデレーションを利用して学外からアクセス可能なものもあります。

2F  
 てい  
 特  
 特に  
 部屋

## 利用のしかたは？

- ◆ 2階フロアの資料は自由に閲覧できます。  
バッグの持込もできます。  
ロッカー(100円 ただし利用後返却されます)もありますので、ご利用ください。

**!** 貸出処理をしていない本を館外へ持ち出すと2Fフロア入口のゲート(BDS)で警告音が鳴ります。

この建物の2階フロアは、一般の人でも自由に入ることができます。  
貴重品等は、個人できちんと管理してください。  
2階で飲食はできません。1階の指定の場所をお願いします。

- ◆ 地下1書庫は、府大の学生さん、教職員のみ入室できるスペースです (利用時間：平日9:00から17:00)。

OPAC(蔵書検索)や閲覧席もあります。  
西側カウンターの横の入退室ゲートに学生証(利用証)をかざして入室してください。  
地下へはバッグの持込はできませんので、ロッカーを利用してください。ロッカーに入らないものはカウンターにお預けください。

※学生証(利用カード)を忘れた時は、カウンターの職員に声をかけてください。  
※入室できない時間帯は、職員が資料を出納します。

## Webサービスを利用しよう!

図書館HPのマイライブラリは、便利な機能満載!

- ◆ 貸出中の本に、予約がかけられる。
- ◆ 借りている本のタイトルや返却期限がわかる。
- ◆ 返却期限の延長  
(但し、予約がない場合で、返却期限内1回のみ。)
- ◆ 学内にない図書や論文の取寄せの依頼ができる。  
(複写料、送料等の実費は必要。)

施設予約システムから、グループ研究室や研究個室の予約ができる。

「図書館Webサービス申請書」(新入生の図書館からのお知らせの封筒にあり)に自分で決めたパスワードを記入し、学生証と一緒にカウンターへ提出してください。  
このパスワードは、図書館専用です。  
利用者IDは、学籍番号です。  
在学生の申請も歓迎です。申込書はカウンターでお渡します。

図書館をうまく使った  
こなし、充実した  
大学生活を!

# 役になろう!!!

## 部屋を利用しよう!

利用ガイダンスを行います! 日程は、本誌最終頁や図書館HPで確認を!

- ◆ 一人で集中して学習する「研究個室」10室  
※1回3時間、1回のみ延長可。1日最大6時間まで
- ◆ グループで学習する「グループ研究室」4室  
※時間制限なし 36人まで1室/12人まで3室。

事前に予約もできます。  
当日空きがあれば申込をして即利用可。

図書館HPの「施設予約システム」(利用できない日や曜日もあり)またはカウンターでお申込みください。

貸出用のノートPC10台、プロジェクター3台あります。



フロアは、小部屋に分かれます。  
特定の資料を探される際は、所在(資料を配架しているの名前)にご注意ください。

資料が見つからない???

カウンターで相談してください。

遠慮なく職員に声をかけてください。  
ひよっとしたら、ちょっとした検索のコツを職員から聞いたから見つかるかもしれません。  
また、OPACや契約の電子ジャーナル等では見つけられなかった資料も、色々な方法で入手することができます。

- ◆ 協定校である京都府立医科大学、京都工芸繊維大学、京都外国語大学の図書館を利用する。  
(貸出可。別途各図書館の利用者登録が必要)
- ◆ 協定校以外の大学図書館を利用する。  
(事前に本学図書館を通じて照会が必要)
- ◆ 本や論文を他館から取寄せる(費用は実費)
- ◆ 公共図書館を利用する。
- ◆ 学生希望図書としてリクエストする。



# 電子ブック 購入中!!

学内からアクセスできます。  
同時アクセス数1。  
学術認証フェデレーションを  
使えば、学外からも可!

増補  
新訂  
國史大系

◆利用可能巻  
1 ~ 25, 53, 別  
※26巻以降発注中

発達

◆利用可能巻号 ※継続中  
128 ~ 152  
(2011AUTUMU ~ 2017AUTUMU)

こころの科学

◆利用可能巻号  
162 ~ 179 (2012/3 ~ 2015/1)

人工知能

◆利用可能巻号 ※継続中  
31(1) ~ 33(1) (2016/1 ~ 2018/1)

住宅建築

◆利用可能巻号 ※継続中  
443 ~ 468 (2013/2 ~ 2018/4)

ここに挙げたのはほんの一例です。  
現在、日本語の電子ブックは、MARUZEN eBook Libraryで143点(雑誌検索用含む)、  
NetLibrary:EBSCOhost eBook Collectionで33点利用できます。  
今後も可能な限り増やしていきますので、ご期待ください。

検索結果一覧 (全館所蔵)

OPACで検索できます！  
検索結果にこのアイコンが  
表示された資料は電子ブ  
ックです。

京都府立大学附属図書館  
Kyoto Prefectural University

データベース 電子ブック

「電子ブック」検索専用頁から検索  
できます。  
「データベース」の頁には、電子ブ  
ックの項に、利用可能資料の一覧も  
あります。

## 新しくなった附属図書館を使おう！

文学研究科史学専攻博士後期課程 川 口 成 人

新年度が始まりました。ご入学された新入生の皆さんはもちろん、ご進級された在学生の皆さんも、気持ちを新たにして、春を迎えているかと思います。これから、授業や試験、課題のレポート、さらには卒業論文といったものに取り組んでいくなかで、多くの本を手にとることでしょう。本を必要とする府大生の最も身近にあり、頼れる味方になってくれるのが、府立大学の附属図書館です。

さて、附属図書館は、昨年度より京都府立京都学・歴彩館2階に移転しました。長らく旧図書館にお世話になってきた私も、ようやく館内の構造や書架の配置に慣れてきたところです。ここでは従来からのものも含めて、知っておくと便利な図書館のサービスについて少しだけ紹介します。

まず、図書館の所蔵している本を探したい時は、図書館 Web サイトの蔵書検索 (OPAC) を利用して検索してみましょう。図書館と同じフロアにある歴彩館の蔵書も同時に検索することができます。目当ての本が所蔵されていなかった場合は、他の大学図書館から本を取り寄せたり、附属図書館を介して他の大学図書館に閲覧申請をしたりすることができます。私がおすすめるのは、図書館への購入リクエストです。カウンター近くに置かれた用紙に本の情報を記入して申請すると、早い場合で一週間、遅くとも一ヶ月以内に本が届きます。専門書は数千～数万円といった高価なものがほとんどで、学生が容易に購入して読めるものばかりではありません (そういう本に限って、研究を進める上で避けては通れな

い本だったりします)。また新品が品切れ・絶版になっている場合もあります。こうした本も図書館にリクエストして入れてもらうことで、自由に手にとることができるようになります。

研究を進めていくと、専門雑誌に載った研究論文を読む必要が出てきます。附属図書館では、こうした雑誌は地下の書庫に収蔵されています。カウンターの隣に設置された装置に学生証をかざすことで、平日9時～17時は自由に書庫のなかに入ることができます。カウンターに申請することで、コピーや図書館外への一時持ち出しも可能です。また、本と同様に、雑誌が所蔵されていない場合は、図書館に複写取り寄せを依頼することで手に入れることができます。

こうしたサービスは、図書館 Web サイトの「マイライブラリ」に登録しておくことで、さらに便利になります。「マイライブラリ」では、借りている本や返却日、借りた本の履歴の確認ができるほか、貸し出し期間の延長、複写・取り寄せの依頼も可能です。また、キーワードに登録することで、自分の関心に応じた新着図書も確認できます。さらに最近では、「マイライブラリ」に登録しておくことで、図書館内のグループ研究室の予約も可能になりました。

以上、紹介してきたのはごく一部ですが、こうしたサービスを積極的に活用することで、図書館は皆さんにとって、さらに役立つものになると思います。新しくなった附属図書館を使いこなして、豊かな学生生活を送られることをお祈りします。

## 附属図書館にて オリエンテーション を開催します



読みたい本は  
どうやってさがすの？



図書館のこと  
教えてほしい！



書庫？ 開架？  
どこなんだろう？？

**4月4日(水)～6日(金) 16:00, 17:00**  
**4月9日(月)～10日(火) 16:00, 17:00, 18:00**  
 \* 11日以降の日程は図書館HPや掲示板ポスター等でご確認ください。

**★歴史館2階府大図書館グループ研究室4に集合★**

▶館内ツアー ▶図書館HPの説明 ▶OPAC(オンライン蔵書  
検索)の使い方紹介を予定しています。  
**新入生対象ですが、在校生も転入学生の方も大歓迎！！**


## カレンダー

9:00～  
21:00

9:00～  
17:00

休館  
第2水曜  
日  
祝日

※平日17:00以降、土日は行っていないサービスもあります。  
 ご了承ください。  
 返却は、開館時間中にカウンターへお願いします。



2018年4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

★4/9(月) 春休み貸出返却日

2018年5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2018年6月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30